

会員NO A-218 三浦雅也さん(寄稿)

私は今、建材メーカーに勤務しています。インテリアとはあまり縁の無い部署で、現状は少し寂しい結果に終わってしまっています…。北海道IC協会に所属させてもらっているのは、継続的にインテリアの勉強を行いたいことと、機会があればあわよくば(笑)…という気持ちによるものです。

私はアウトドアの活動が好きです。外で過ごす気持ちのよさを実感したいので休日は自然の中に出かける事が多いのですが、なぜ気持ちが良いのだろうと考えたら、『絶えず身の回りの空気が動いている』事が第一の要因なんですね。食べる時も飲む時も、作業の中でふと手を止めた時も、景色を眺めながらくつろぐ時も、



限りない空間の中で絶えず空気が動いている。それを日常の限られた生活空間の中にどこまで再現できるのか。そんな家・空間づくりを試してみたいと、その機会に今後恵まれることがあれば など、思っています。

会員NO A-219 安中美和子さん(取材)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいきっかけ

出産までご主人と同じ設計事務所勤務。住んでいる人の生活を生かす色彩や質感に興味があり、子供が大きくなり再就職を考えたときにインテリアコーディネーターの資格を取得し、『ご近所でインテリアが好きなら』という設備会社の求人をご主人が見つけてくれました。また昨年2月には設計の事務所登録をしました。



・今の仕事の内容や近況など
一昨年に中古住宅を購入後リフォーム工事を行い、TOTO リモデルコンテストで優秀賞を受賞。工事は勤務先のホクエイテクノさんに依頼し現場監督はご自身で。忙しい時期に自分の家の工事なので職人さんには気を遣ったそう。北側に公園の見える窓、子供部屋はドアが一つで収納が間仕切り、嫌がったのは最初だけのこと。ウォークインクローゼットは広くとりモノをまとめ収納。見た目はしまし収納と思うけれど使い勝手の良い収納を優先。カーテンは色柄物も好きですがご主人のイメージを優先し質感のあるアイボリーに。アイカシルキーパレットの塗り壁でTV 面はご自身、2階は羽を骨材に息子さんと手で仕上げ、本職さんからこの味は出せないとお褒めの言葉？

このころは勉強されて来るお客様が多いようですが、プラン段階から打ち合わせを行い、設備屋さんなので電気や都市ガスの要望が多いことやカーテンなどは先に決めていることが多いので今後はそちらにも力を入れたいそうです。また、設計事務所と職人気質との違いを実感、お客様とのやり取りの難しさ、細かく確認してもイメージスケール感を理解してもらえないなどの毎日ですが解体から



デザインスタジオ エムヒール

<http://www.m-heal.com>

札幌市東区北28条東18丁目1-25

TEL:011-783-5774

会員NO A-220 墨谷展子さん(寄稿)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいこと・協会入会のきっかけ

この仕事を始めたいきっかけは父が家具職人でもあり、結局今思うと仕事を継いでいるような感じですが、小さいころから、家具や建材にふれながら育ったので、一旦会社に入って何をしようかと考えたところ、カラーや家具の絡む仕事となると、この仕事になりました。そんな時にシアトルのデコレーター

の女性に会い、迷わずアメリカに行ってしまったのが始まりです。

・今の仕事の内容や近況など

最近では住宅や店舗もさることながら、協会のご紹介により、北海道ウォーカーさんの雑誌で部屋のピフォーアフターをさせて貰って、なんだか新鮮でとても楽しかったです。角川さんとはこれからこの企画を続けていきたいという話になっています。



会員紹介

今号は8名の方をご紹介します

(取材)取材に伺いご紹介した方(寄稿)寄稿いただいた方

会員NO A-222 伊藤美樹さん(取材)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいきっかけ

大学進学で上京。数社を経て内装会社へ就職。マンションが主で材料や職人手配など楽しく仕事をしていたが会社がなくなり(涙)、転職したリフォーム会社でバリバリ仕事をしていた。が、仕事だけの生活に違和感を持ちいずれは戻りたいと思っていたので3年前に18年ぶりに札幌へ。同じ仕事を！と思い、職を探しても見つからず、当協会に電話をしてみたところタイミングよく求人情報があり、



転職と同時期に入会されました。
・今の仕事の内容や近況など
現在はリフォーム会社でプランナーとして活躍されています。内装会社時代に現場を経験し、他の人がプランしたものを作るより自分でプランしたいと思うようになりプランナー職についている伊藤さん。

でも工事もやりたいし全部自分でやりたい！！営業、設計、工事と分業化されている会社で悩みつつも、他の人と動くとその人を見て勉強になるなど、チームで動くことの良さも感じているそうです。転職を繰り返してきてインテリアの仕事に落ち着き、続けないと見えない事があると気づいた今、これからは“継続していくこと”が目標で春からがんばるぞー！！の伊藤さんでした。

・インテリアの仕事に携わっていて北海道と本州で違うと感じること

上京したとき花が綺麗で、どこに行っても桜が咲いていると思った。北海道は花が黄色だったり小さかったり…。東京での転職は数ある中から選ぶことができ(札幌もそのつもりで戻るとあまりの求人少なさに愕然としたそう)、仕事をするには良い場所だけれど、ただ仕事だけがガツガツしているという印象があります。

会員NO A-223 北條牧子さん(寄稿)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいきっかけ

前職は木造住宅・賃貸物件の設計。圧倒的に男性の多いこの職種でこれから自分がどうしていけば良いのか考え、インテリアコーディネーターは子育てを終えてからでも復帰でき、家事や子育ての経験が付加価値となり、年を重ねることによりよい提案ができるやりがいのある職と思ったのです。

・今の仕事の内容や近況など

リフォーム物件を対象としたコーディネート提案及び図面・パース等の作成業務。写真

は私が携った上野幌モデルルームで築26年1Fに2室の和室、2Fに2室の4LDK住宅。50代からの二人の人生を楽しみ、安心できる住まいになる様設計。基本的に1階で全ての生活が完結できるよう寝室～水廻り～居間～台所の動線を確保。建具は引戸を採用し、普段は開け放して二人がどこにいても気配が感じられるよう1ルームの様に。壁は珪藻土、造作材はブラックチェリー色で温かい雰囲気を作り上げとても居心地の良い明るい住宅に生まれ変わりました。お近くにお越しの際はお立ち寄り下さい。



新築購入時は、居室を何畳以上確保するとか畳数で計算し、生活動線やスタイルを考慮できず必要な広さの水回りや玄関、余暇スペースなどが取れていない場合が多い気がします。しかし、そういったスペースが一番重要であり日常生活を豊かにさせるのではないかと実感しております。たくさんのお家を訪問させて頂き、人生というものも学びながら…とても楽しいお仕事です。皆様のライフスタイルの一つでも花が咲くように、日々頑張りたいと思っております。

・インテリアの仕事に携わっていて北海道と本州で違うと感じること
インテリアの市場が少なく家具や小物に至るまで実物が見れないので判断できにくく、お客様にも紹介できかねます。やはり自分の目で見たものが説得力もありませんし、説明もできませんから。
・勤務上、長期的な勉強会などは仕事の状況がどうなるか分からないため参加できないのですが、一日で終わる体験セミナー、建築見学セミナーなど体験セミナーを増やして頂けるとありがたいなあと思います。

ミサワホームイング北海道㈱

札幌市白石区本通21丁目北1-35 TEL:011-846-0140+

・インテリアの仕事に携わっていて北海道と本州で違うと感じること

まず選ぶ素材が違うということ。まだまだ北海道はシンプルモダン系がメインであると共に収入がシンプルなものもあると思いますが、もっといろいろなデザインに挑戦してもらいたいものです。東京のICとも情報交換していますが、内装がまる違うので、ちょっと悲しくなる時もあります

・当協会に思うこと

私達のICも同じなのですが、結局いつも活動しているメンバーが同じなので是非みんなが参加できるようなセミナー内容や魅力あるものにしてほしい。(なかなか難しいですが…)私的にはパースのセミナー(個人レッスン?)がしてほしいなあ！よろしく願いいたします。

リビング・シングス URL<http://www.livingthings.jp/>

札幌市中央区南4条西26丁目1-5-404 TEL 011-520-0308

会員NO A-224 大谷薫さん(取材)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいきっかけ

東海大デザイン科卒業後、㈱ニトリホーム事業部に勤務しIC資格取得。お客様から信頼を得て打ち合わせをするために、また若く見られることが多く、必要な？と思ったそうです。写真の通り、本当にかわいらしい。勤務しながら大学院に通い、7年前に旭川へ帰郷、5年前に独立されました。

・今の仕事の内容や近況など

昨年5月デザインークショップを開店。ICの店としてワクワクする商品を提案し、ICと気軽に相談ができる身近な存在で、トータルなIC業務へ発展させたいとのこと。また、基本設計・デザインを手がけた120坪の洋菓子屋さんが5月に完成。北海道から依頼の北方型住宅の体験用模型作成やエク



テリアと幅広くお仕事をしています。ニトリさんで一番楽しかったことは？の質問に研修や買い付けで見たり聞いたりすること、考えたり想像したことが形になることと答えてくれました。今もそれが楽しく続いていると感じさせてくれるショ

ップとご自身です。

旭川での住まいづくりに心がけているのは、地面が近く自然共生が似合うように。敷地内で五感をくつろがせるように。そしてコミュニケーションがあることなどご自身の体験などから多くの思いをお持ちです。

・インテリアの仕事に携わっていて北海道と本州で違うと感じること

ソフト・デザインに対する対価の考え方が違うのでは？

デザインーク <http://design-talk.com>

旭川市緑ヶ丘4条1丁目1-36 TEL:0166-66-0540

会員NO A-225 鈴木紀美江さん(寄稿)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいきっかけ

基本的に物見高いので、偶然(必然?)でこの仕事を始めました。

・今の仕事の内容や近況など

工務店にてコーディネートや雑務、フリーで色々。インテリアプランナー協会にも所属(資格は無いので準会員)しており、企画など担当しています。先日は中山真琴氏の自宅見学会を開催しました。

・インテリアの仕事に携わっていて北海道と本州で違うと感じること

本州と一口に言っても東北なのか、東京なのか、関西なのか…地域によって違いがあるとおもいますので、その比較は難しいですね。ただ、インテリアの仕事に関わっているからという事ではないのですが、その土地その土地の持っている空気が違うと思います。特に、(上の国や江差・松前などの道南は除いて)一般的に北海道は歴史も浅く、各県からの移住者が集まり、アメリカ型で開拓したから、やはり他の地区と比べて、特殊なのでしょうか。歴史的な事とはともかく、現状の社会はどんどんグローバル化フラット化が進んでいるので、違いをどんどん感じなくなるのでしょうか？ また情報はネットなどでほぼ同時に手に入れますが、体感するといふ事…その機会が多く、気軽に出来るのは本州ですね。連続して違うのね。と感じます(笑) 右が鈴木紀美江さん一ちゃんです
・当協会に思うこと 堅いもの、柔らかいもの、間口を広く色々バランス良く取り揃えて企画・運営をお願い致します。



会員NO A-226 戸田智代さん(取材)

・インテリアコーディネーターの仕事を始めたいことと協会入会のきっかけ

自室の模様替えを手作りで工夫し、無意識にインテリアが好きだったので21歳のときインテリアコーディネーターになろうと本を購入、当時は年齢制限があり断念。結婚し子供が手を離れ、ふと思い返して資格を取ろうと決意しました。IC資格は東京で取得し東京のIC協会に所属。転勤で北海道に戻り当協会に入会されました。

・今の仕事の内容や近況など

今は子育てが家庭が生活の中心で、男の子二人の子育ては日々戦い。家もモデルルームのようにきれいななんていかない。子育てを経験した人は忍耐力がつくと思うので何でも出来る気がする。転勤や主婦の経験を生かし、どこにいてもできるような仕事を見つけることが今後の課題。流れに身を任せ、周りの影響を受けながら、何をやるというよりその時々身の丈にあったことをしていきたいと。

・インテリアの仕事に携わっていて北海道と本州で違うと感じること

東京IC協会は就職やアルバイトの紹介が多く、そのつもりで当協会に入会したが仕事情報が少なく驚いたそう。道新での2次試験対策講師の立場から勉強時のスクール選択肢の量(東京は気軽な金額、時間で受講可能)を痛感されています。

東京は寒く暖房がないので厚着を覚えるルームシューズや湯たんぽを使い家の中でも外のように着込む。交通が発達し気軽にどこでも行け、行動力が養われる。都会の人は冷たいと思っていたが地方から来た人が多く許容量の広い人が多い。

・当協会に思うこと

敷居が高いような…仕事を持っていない人が気軽に集まれる場が欲しいと思います。入会自体躊躇している人もいるのでは？セミナーも時間が夜間で仕事をしている人向けの内容で行きづらい。仕事を持っていない同好会“無職友の会”なんていかがでしょうか？今は無理でも興味は持っていて、いずれは参加していきたいという人に向けて現役で活動している人の話がきけるとよいです。

